



日本建築学会近畿支部民家部会 令和5年度 研究発表会

小屋のブリコラージュ

— 自分でつくる・有物でつくる —

戦後、住宅は産業化・商品化され、住まい手・住まい・地域の関わりは弱くなりました。親しみやすい規模やつくりをもち、地域や暮らしに関わって建てられてきた小屋の事例研究から学び、身近な有物を用いて自分でつくることの未来を考えます。

2024年3月17日(日) ハイブリッド開催 参加無料

13:00~17:00 京都府立大学 稲盛記念会館 + Zoom



参加をご希望の方は右上のQRコードより事前登録をお願いいたします。開催1~2週間前を目処に、対面会場やオンライン参加URLなど詳細をご案内いたします。

13:10~14:00 発表1

中村 航 (足利大学)

土積み壁のある小屋

日本には土を積んで造った土塀のような壁のある小屋があり、近くで採れる材料が用いられ、施工には多くの住人が関わっています。撫でたり叩いた跡のある土壁に加え、あり合わせの材料が歪んだり、曲がったままでも許される、そんな不思議な小屋を紹介します。

14:10~15:00 発表2

釜床 美也子 (香川大学)

**地域の材料を用いた住民による
伝統的な建築生産の現在** 茅葺きを例として

住民自ら材料を調達し施工するという民家の建築生産は、現在も小規模な小屋のような建物に実践を見出すことができます。石(石屋根)と草(茅葺き)の屋根の研究を通して見えてきた、現代社会におけるその実践の意味について考えます。

15:10~16:00 講評

石榑 督和 (関西学院大学)

戦後、人々が即興的につくりあげた闇市に関する都市史研究の視点から、発表に対する講評を行います。

16:10~17:00 討議・質疑